

(別紙2) 令和5年度兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科インターンシップ一覧

(研究室で選ぶ場合)

(いずれの研究室とも、最終日にはレポートを作成し、発表していただきます。)

研究室(教員氏名)	テーマ	内容	習得できる技能	受入人数・期間
教授 永野康行	安全なまちづくりに向けた建築構造物の構造設計をやってみよう	安全で安心なまちづくりにおいて、建築物の耐震性は非常に重要です。本実習では、簡単な建築構造物の構造設計を1から学習し、自分自身で設計をやってみます。後半ではコンピュータプログラムを用いた地震応答解析の基礎についても実習します。	簡単なS造の構造設計、地震応答解析の基礎	2名程度・8/28-9/1
教授 馬場美智子	都市の風水害リスクを理解し防災対策を考えてみよう	多くの都市では、人口や建物、インフラ等が集中している一方で、様々な自然ハザードに曝され災害リスクを抱えています。本研修では、地理空間情報システムを用いて都市の特性や洪水・土砂災害リスクを空間的に分析し、防災対策を検討します。	空間分析手法の基礎、都市分析、リスク分析	2名程度・8/28-9/1
准教授 谷口博	気象・気候変動のデータ解析をやってみよう	気象災害を理解し防災・減災に役立てるためには、過去の気象データの解析が欠かせません。本実習では、各種の気象データについて学び、実際にコンピュータプログラムを用いて気象・気候変動の簡単なデータ解析を行います。	各種気象データの取り扱い、気象・気候データ解析の基礎	2名程度・8/28-9/1
准教授 平井敬	地震の揺れを分析・予測してみよう	建築物や土木構造物の耐震設計、ハザードマップの作成等において、地震の揺れを適切に考慮することは重要です。本実習では、実際に発生した地震の揺れの記録を分析し、被害との関係を考察します。また、将来の地震による被害想定的基础となる揺れの予測についても実習します。	信号処理・時系列データ解析法、地震動予測	2名程度・8/28-9/1
教授 阪本真由美	災害情報とリスクコミュニケーション	現在の災害対応においては、災害情報は極めて大切です。災害情報の特性を知るとともに、実習を通して私たちの日常生活にある災害情報への気づきを得て、それらを効果的に活用する方策を検討します。	避難情報に関する基礎知識	2名程度・9/4-9/8
教授 浦川豪	自分でハザードマップを作成してみよう!	各自治体においてハザードマップが住民に公開されています。自分の住んでいる場所を中心としたハザードマップが欲しいと思っている住民も多いと思います。それならば自分自身で作成してみましょう。本実習では、オープンデータをGIS(地理情報システム)で処理し、オリジナルのハザードマップを作成する実習とします。	ハザードマップに関する知識、地理空間情報に関する知識、GIS及びクラウドGISの操作技術	2名程度・9/4-9/8
准教授 松川杏寧	安全・安心な避難所運営マニュアルを作ろう	急に大勢の見知らぬ人との共同生活が始まるのが避難所です。そこから自分たちの家や生活を立て直していくためには、安全・安心して過ごせる避難所が必要ですが、見知らぬ人たちばかりでどうすればよいのでしょうか。本実習では、避難所設計と運営について考え、マニュアルを作成します。	避難所運営に関する知識	3~5名程度・8/28-9/1